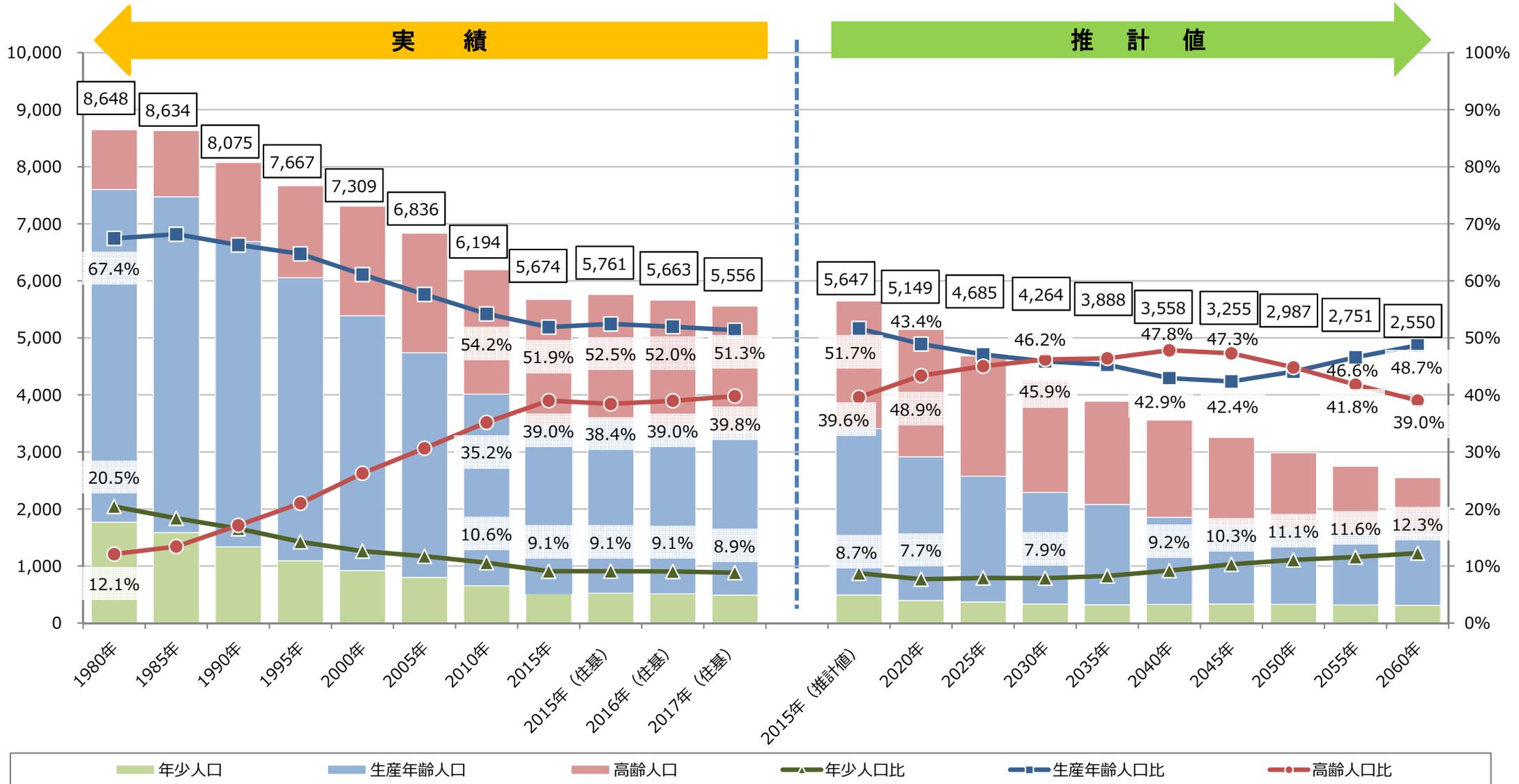


奈井江町の人口動向

総人口の推移

2015年（平成27年）国勢調査の総人口は5,674人となり、前回調査（2010年）と比較すると△520人（△8.4%）となったものの、人口ビジョンの推計値と比較すると27人上回る結果となった。

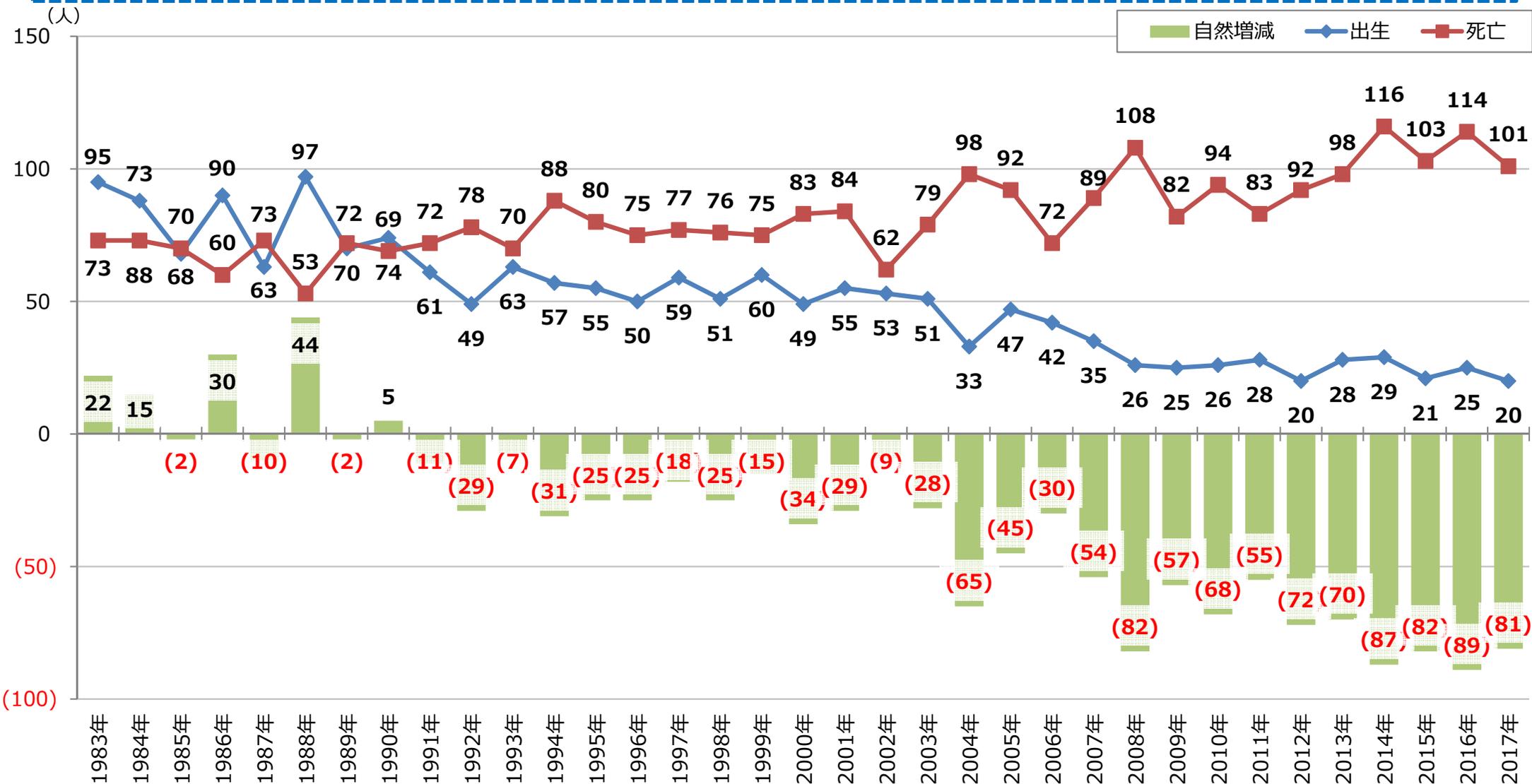
参考値として、住民基本台帳上の人口とも比較してみると、住民基本台帳上の人口は、国調より100人程度多い傾向があることを考慮しても推計値を若干上回る数値で推移していると思われる。



(出典：住民基本台帳、国勢調査、奈井江町人口ビジョン)

出生・死亡（自然増減）の推移

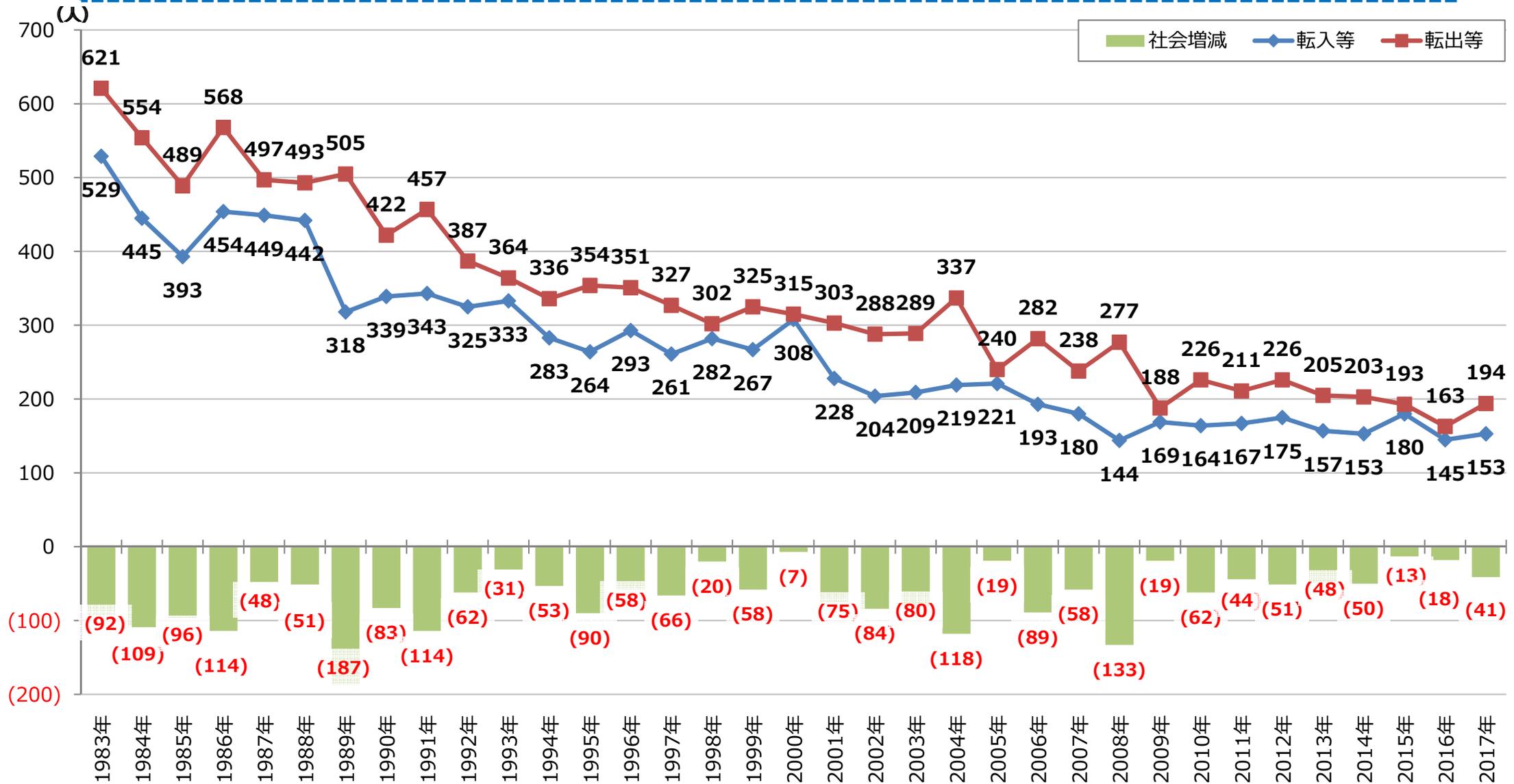
2017年（平成29年）の状況を見ると、出生、死亡ともに前年と比較し、減少となった。
 出生数については、近年の状況と比べると若干減少し、2018年の出生見込み数も19人となっていることから、減少傾向に転じている可能性がある。
 死亡数については、推計では、高齢者人口のピーク期が当面続くため、今後も同数程度で推移することが見込まれるが、上がり止まりの傾向が見られている。



(出典：1983～2002 空知総合振興局 空知地域保健情報年報、2003～2017住民基本台帳)

転入・転出（社会増減）の推移

2017年（平成29年）の状況を見ると、転入者数は前年より上昇したものの、転出者数が再び上昇した結果、2017年の社会増減数は、マイナス41人となり、定住施策開始の前の数値に近い数値となった。
 しかしながら、今年度の集合住宅の建設も既に4棟26戸が予定され、また、北町4区に分譲地の販売も進んだことからその効果に期待したい。



(出典：住民基本台帳)

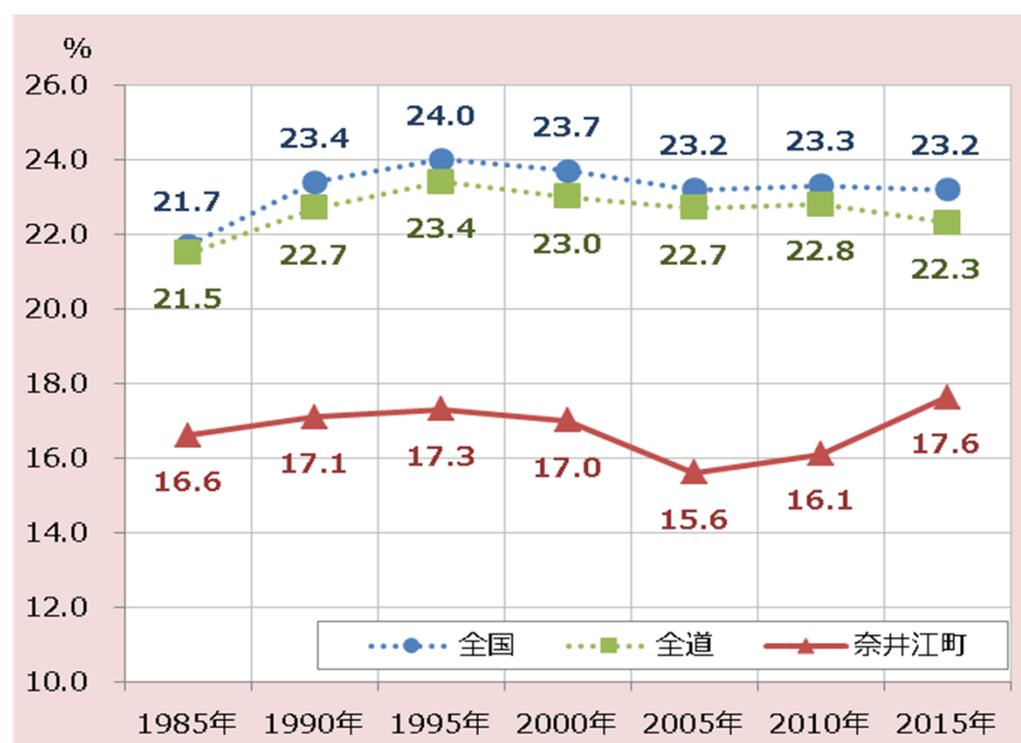
未婚率の推移

2015年（平成27年）の状況を見ると、15歳以上人口で見た場合は、未婚率は上昇傾向が続いているが、25歳～49歳の年齢区分別の未婚率を見ると、若い世代で男女とも減少していることがわかる。

■15歳以上の人口に対する未婚率

【男性】

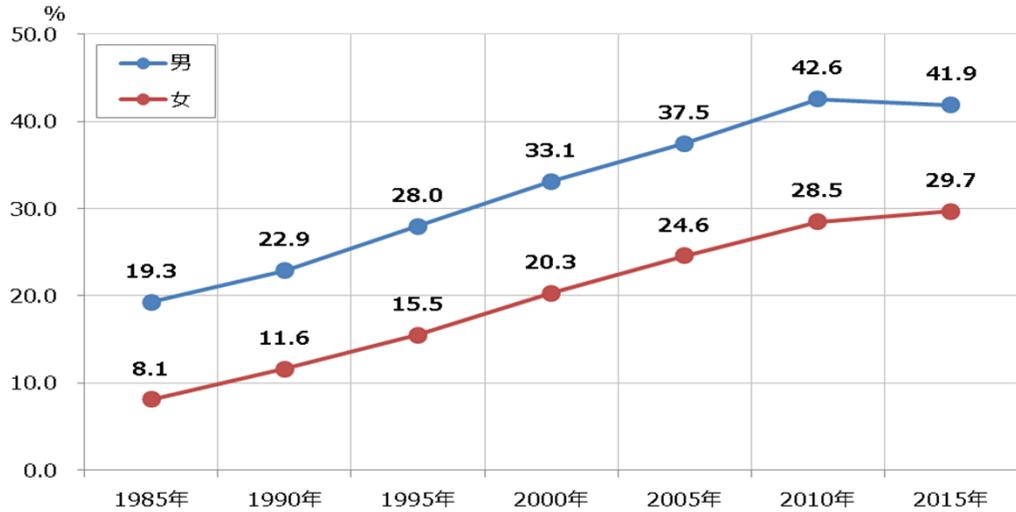
【女性】



(出典：国勢調査)

未婚率の推移

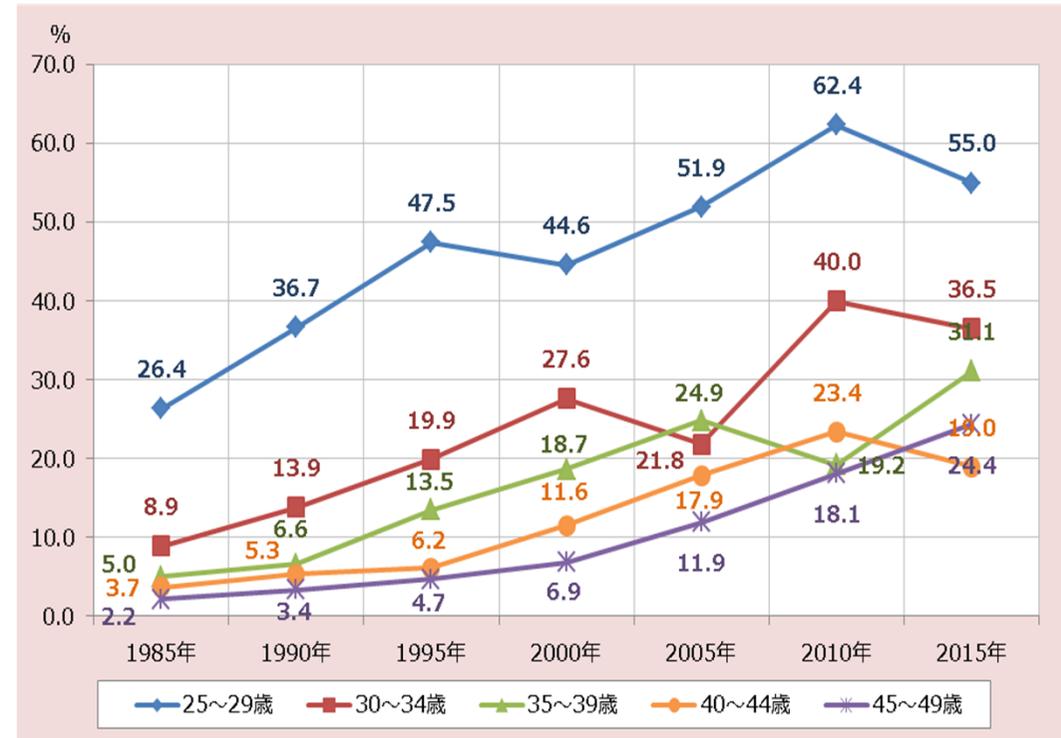
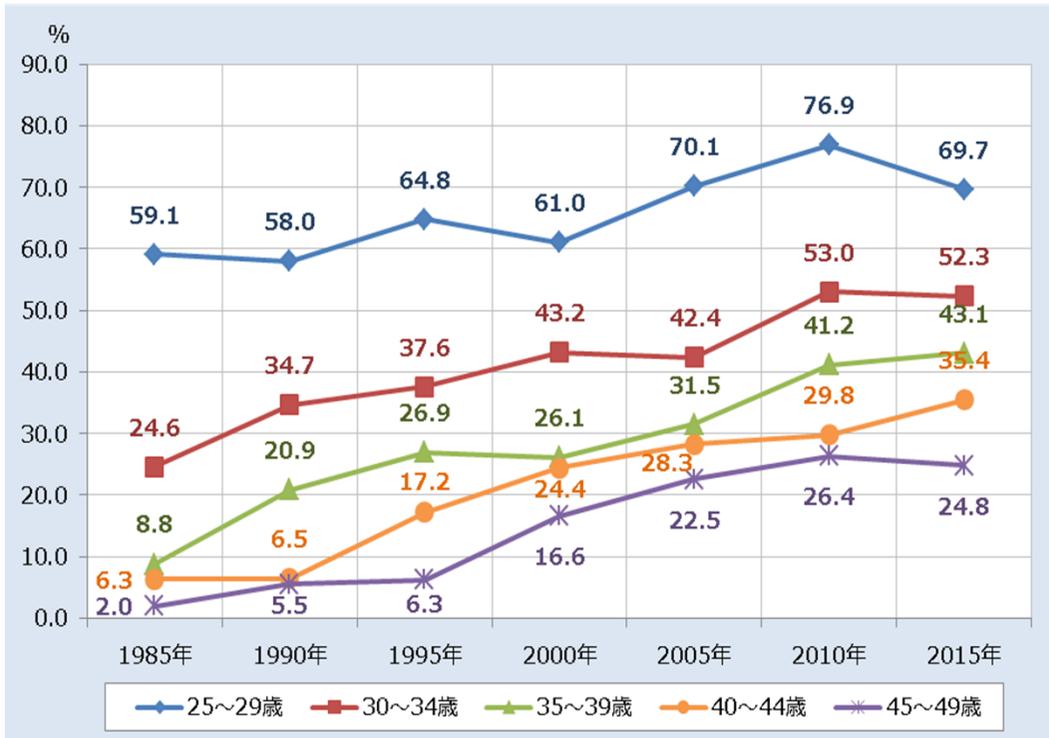
■25～49歳の人口に対する未婚率



■25～49歳年齢区分別の未婚率

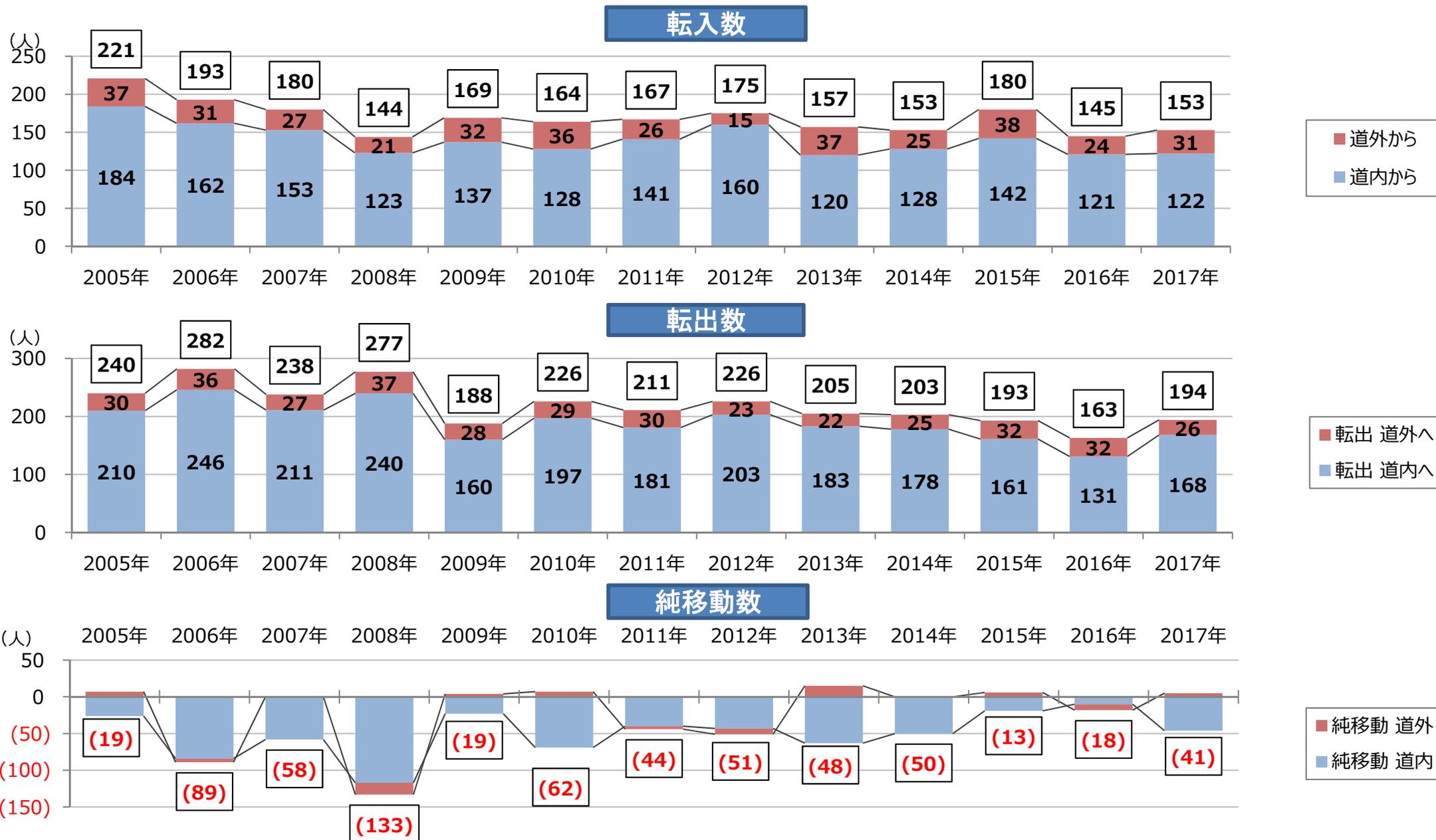
【男性】

【女性】



転入・転出の推移

2017年（平成29年）の状況を見ると、転入・転出ともにほぼ例年ベースの割合となった。今後は、多少増減はあるものの、子どもの数の減少とともに、純移動数も徐々に減少していくものと見込んでいる。



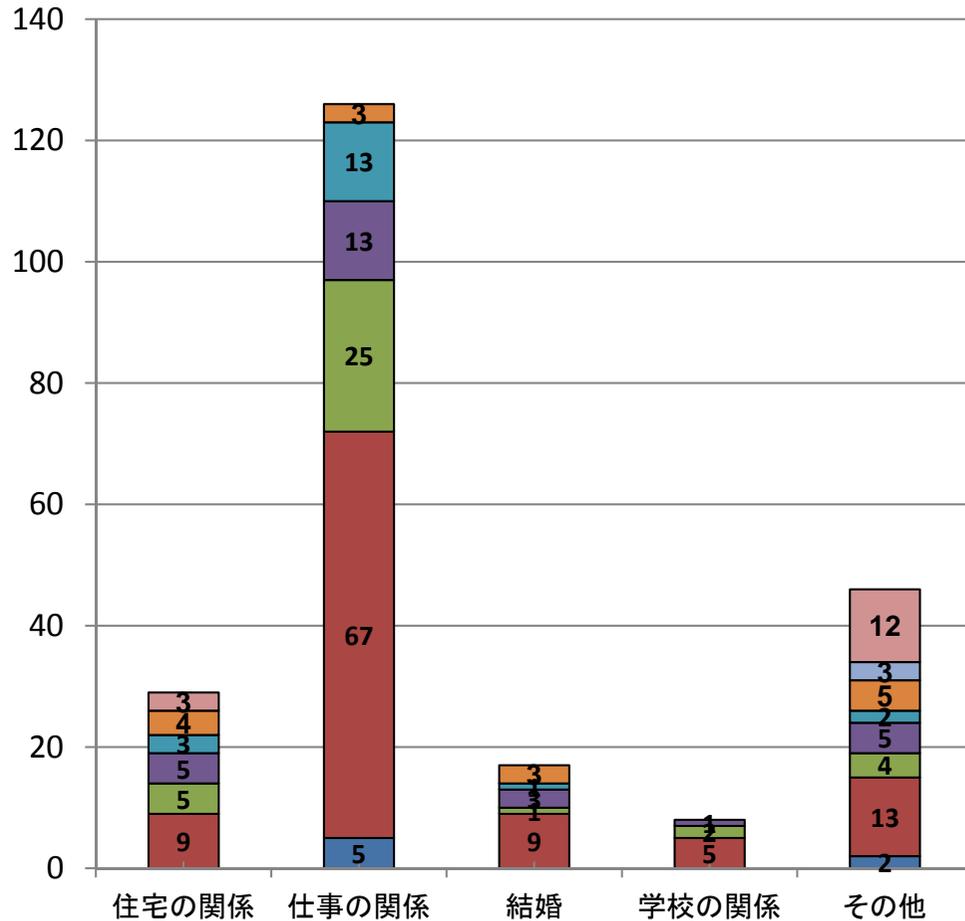
(出典：住民基本台帳)

転入者アンケートの状況（平成28年3月～平成30年6月末）

転入者アンケートでは、奈井江町に転入した理由として最も多かったのは「仕事の関係」で、次いで「その他」が多く、「実家等（身内がいる）があるから」「施設入所」との回答が多かった。また、転入先として選んだ理由では、「親や子どもが住んでいる」が最も多く、次いで「勤務先や学校がある」となっており、奈井江町に転入した理由のグラフと比例する結果となった。

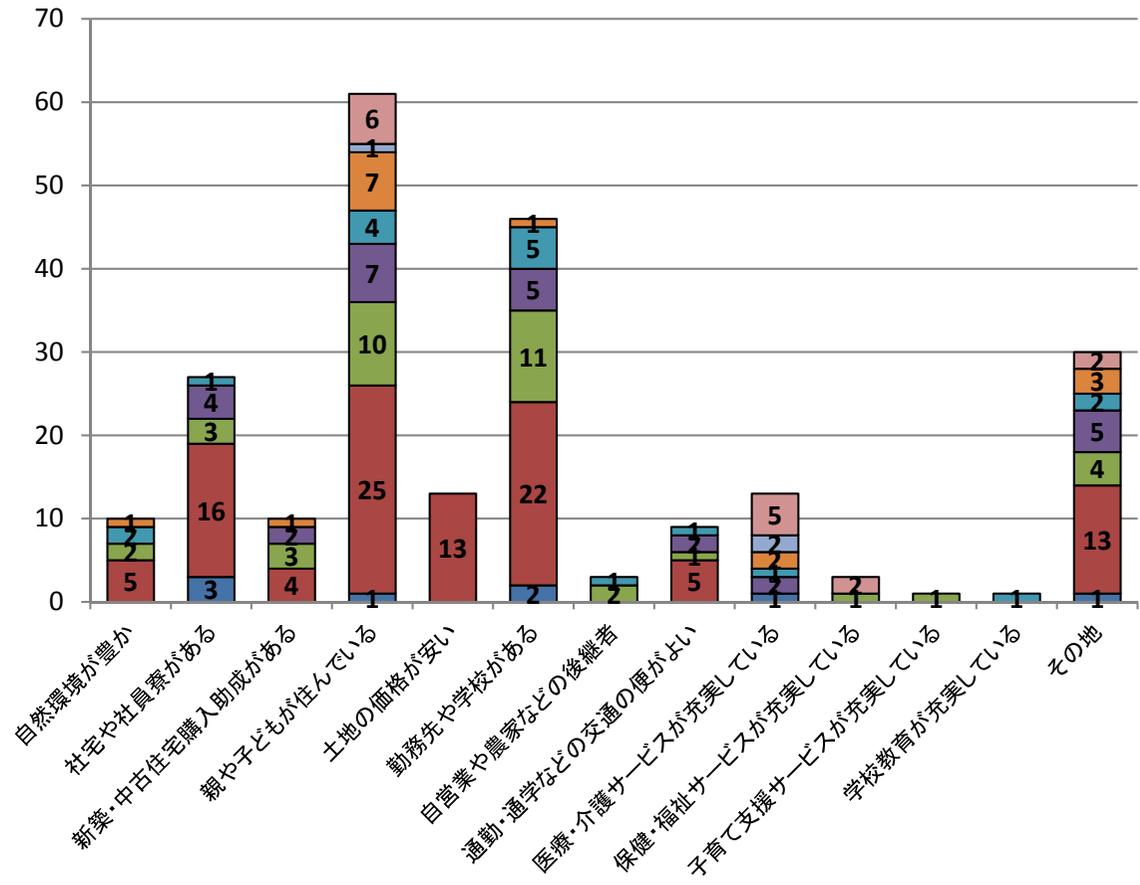
奈井江町に転入した理由は？

■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代
■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳以上



転入先のまちを選んだ理由は？

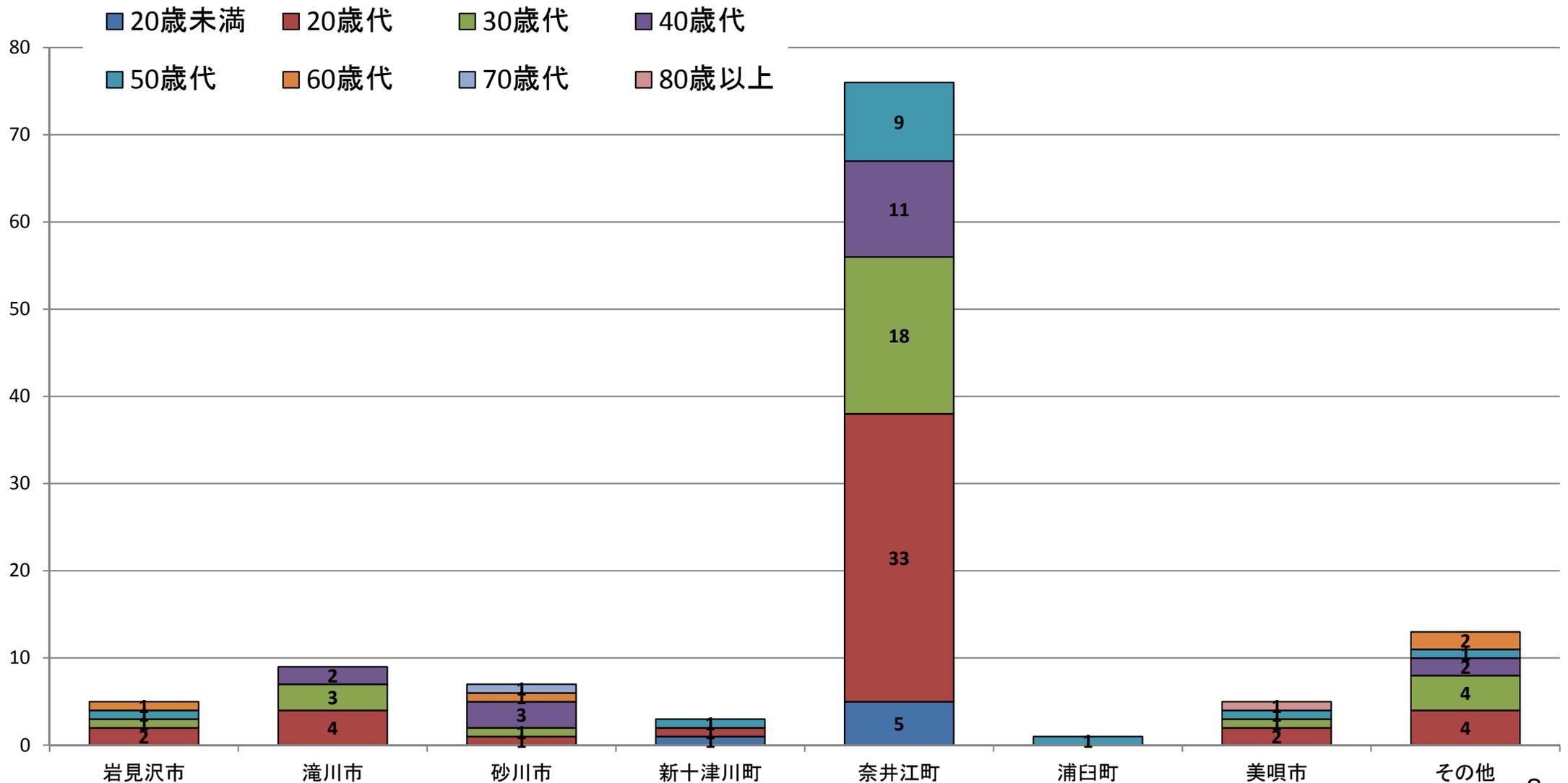
■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代
■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳以上



転入者アンケートの状況（平成28年10月～平成30年6月末）

勤務先の市町は、「奈井江町」が最も多く、次いで、「砂川市」「滝川市」となっており、町内勤務者のほぼ半数が町外へ通勤していることがわかる。

勤務先の市町は？

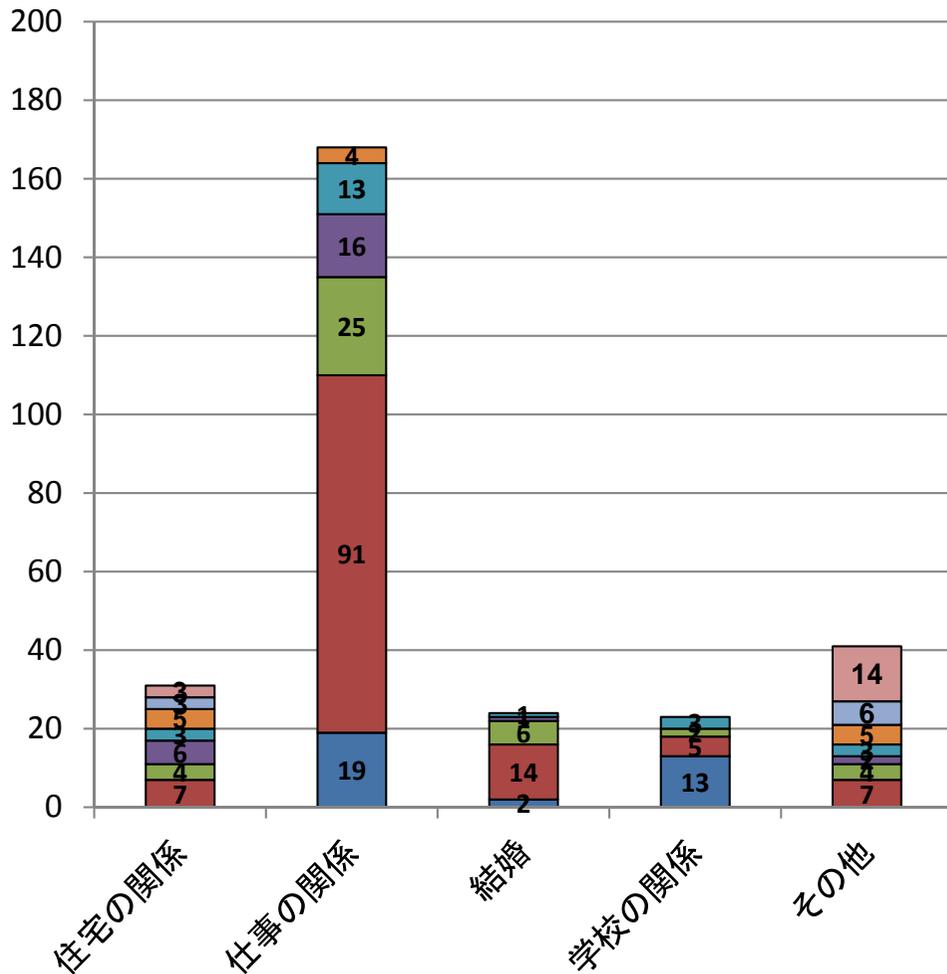


転出者アンケートの状況（平成28年3月～平成30年6月末）

転出者アンケートでは、奈井江町から転出した理由として最も多かったのも「仕事の関係」で、10代～20代を中心に若い世代での転出が目立ち、これに伴い、転出先のまちを選んだ理由も「勤務先や学校がある」「通勤・通学などの交通の便よい」と回答した方が多く、仕事を理由とした転出が例年どおり引き続き多いことがわかる。

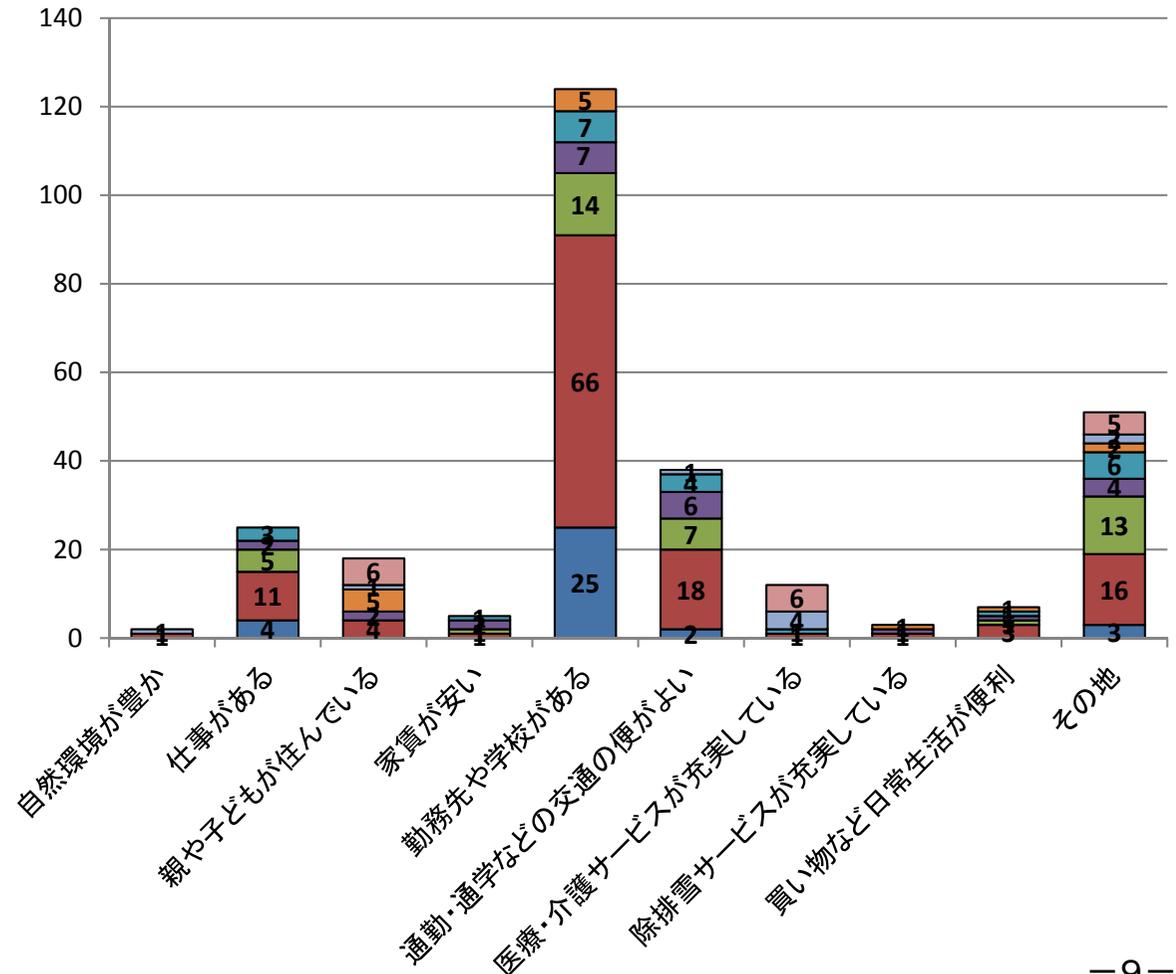
奈井江町から転出した理由は？

■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代
■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳以上



転出先のまちを選んだ理由は？

■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代
■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳以上



年齢区分別の転入・転出者数の推移（平成26年～平成29年）

年齢区分別の転入・転出者数の状況を見ると、転入者数は、平成27年に若年層の転入者数の増加に伴い、乳幼児も増加したものと考えられるが、平成28年以降は例年並みの推移となっている。

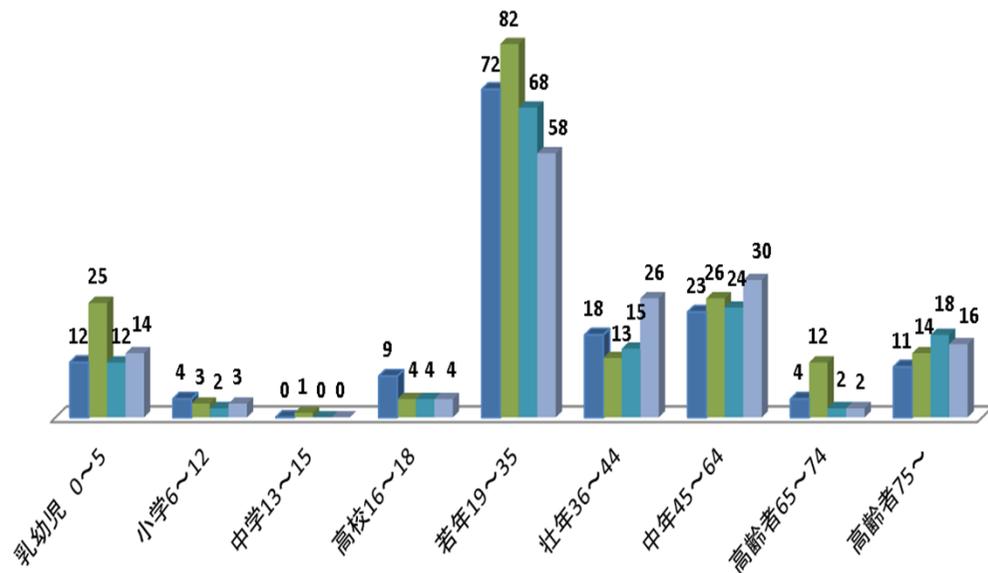
また、年齢区分ごとの転出者状況については、一定した傾向がみられず、今後の状況に注視していくことが必要である。

年齢区分	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
乳幼児 0～5	12	7.8	25	13.9	12	8.3	14	9.2
小学6～12	4	2.6	3	1.7	2	1.4	3	1.9
中学13～15	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0
高校16～18	9	5.9	4	2.2	4	2.8	4	2.6
若年19～35	72	47.1	82	45.6	68	46.9	58	37.9
壮年36～44	18	11.8	13	7.2	15	10.3	26	17.0
中年45～64	23	15.0	26	14.4	24	16.6	30	19.6
高齢者65～74	4	2.6	12	6.7	2	1.4	2	1.3
高齢者75～	11	7.2	14	7.8	18	12.4	16	10.5
総計	153	100.0	180	100.0	145	100.0	153	100.0

年齢区分	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
乳幼児 0～5	10	4.9	6	3.1	6	3.8	9	4.6
小学6～12	5	2.5	1	0.5	4	2.5	0	0.0
中学13～15	4	2.0	3	1.6	0	0.0	5	2.6
高校16～18	7	3.4	14	7.3	9	5.6	8	4.1
若年19～35	92	45.3	89	46.6	81	50.6	82	42.3
壮年36～44	22	10.8	30	15.7	16	10.0	25	12.9
中年45～64	30	14.8	24	12.6	27	16.9	27	13.9
高齢者65～74	7	3.4	5	2.6	5	3.1	11	5.7
高齢者75～	26	12.8	19	9.9	12	7.5	27	13.9
総計	203	100.0	191	100.0	160	100.0	194	100.0

転入者

■平成26年 ■平成27年 ■平成28年 ■平成29年



転出者

■平成26年 ■平成27年 ■平成28年 ■平成29年

